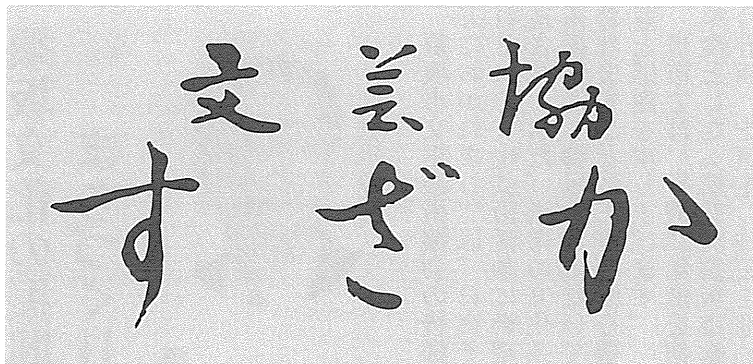




第 36 号

発行所

須坂市文化芸術協会

〒382-0013 須坂市常盤町747

須坂市中央公民館内

TEL(026)245-1598 (有)22-1598

印刷所：ヒタキ印刷株式会社



「グローバル時代に須坂が目指すもの」

信州大学特別特任教授 遠藤 守信 先生



「来賓祝辞」

須坂市長 三木 正夫 様

一意専心

須坂市文化芸術協会会長

南澤 汎 山



春の象徴「桜」長

年の風雪に耐え、凜とした風情で一斉に咲き誇る桜の森の銘木は見

応えがあります。臥竜公園の桜も四月四日開花宣言（昨年より八日早く）。平成14年と並ぶ最も早い開花。あつという間の鑑賞でした。

この度、会長職続投の要請に、再々お断りしましたが、諸事情の折承諾に至りました。浅学非才の私ですが、協会の為重責ではありますが、皆様の絶大なるご支援、ご協力、宜しくお願い致します。

改めて三期六年を振り返ってみました。

①中央公民館との連携「文化芸術講座」6年目的は会員増加と、一般の方の当協会への認識を高める事

②「AED講習会」1年 高齢化でお互い様の精神にのっとつての事業。いつまでも健康で。

③「須坂歴史文化散策とスイーツ食べ歩きウォーク」1年 自分の文化にこだわらず、まずは地元を知る事。長野在住の方がおっしゃっておいりました。「須坂の文化は奥が深く、リピーターとなって勉強したい」との事。私も同感です。

④「子どもわくわくフェスティバル」子供

のみの舞台、展示です。音楽、芸能、生花、毛まりと多彩。それぞれ大人顔負けの作品。将来が楽しみです。

⑤「ツデーウォーク」10年 ウォーキング者の誘導、完全なボランティアです。

⑥「ひな祭り・こどものお茶会と箏（こと）コンサート」芝宮社務所にてお茶を飲みながらの箏鑑賞。心が和みます。そして恒例の事業で、行政または議員懇談会、市民文化祭、新年交流会でした。

また、昨年度須坂が当番の「須高文化交流会」が小布施、高山両文化協会共催で開催されました。須坂名誉市民、信大特別特任教授の遠藤守信先生による「グローバル時代に須坂が目指すもの」と題しての講演を、シルキー3Fホールにて、して頂きました。百三十名もの皆様にご来場頂きました。先生曰く「日本のGDP（国内総生産）が3位から32位、国際的に厳しい立場にある。日本が目指すものはサービス業ではなく、高度な技術革新、財政赤字解消も産業振興が決め手。須坂には高度な技術力を持つ中小企業及び文化がある。とくに青少年育成に全力を尽くして欲しい。教育と文化が豊かな輝く須坂になって欲しい。」経済の前に文化を中心とした必要性を強く感じ、一層活動に励んで行きたいと思えます。終わりに、協会へのご支援、ご指導を仰ぎ、文化芸術の重要性を痛感し、人づくり、町づくり、愛と心と感謝でこれからも貢献して参ります。

須坂文化の振興による

まちづくりと人づくりを



須坂市長 三木正夫

須坂市文化芸術協会の皆様方におかれましては、日夜それぞれの文化芸術活動に御精進され、また、当市の文化芸術振興にも御尽力いただいておりますことに、衷心から敬意と感謝を申し上げます。

当市では、平成23年度を初年度とした「第五次須坂市総合計画」を策定し施策を進めております。これは「まちづくり」に対する基本となる考えと「目標になるまちの将来像」を示し、市民の皆様と「共創」ですすめていくというものであり、その目標の一つが「多様な文化を学び育て、交流する創造的なまちづくり」となっております。一人ひとりが持つ文化的資源により、まちの文化を育て、多様な文化が人を集め、また、個々で学んだことを地域づくりにいかすことを通して、市民の皆様が交流し、お互いを尊重

し集えるまちづくりです。

今年度は、第五次総合計画の後期5カ年の基本計画を策定する年に当たります。これからのまちづくりについて、皆様のお立場でご意見等いただければと思いますので、その節はよろしくお願いいたします。

また、平成23年3月31日には「須坂市文化芸術振興ビジョン」を策定しました。当市発展の基盤に「須坂の文化風土」があることから、評価や新たな創造を繰り返し、文化芸術を核とした「持続可能なまち」を目指すものです。これはすでに須坂市文化芸術協会の会員の皆様方が、日々の活動で実践されていることでもあり、その活動にあらためて感謝を申し上げます。

今後は、文化とスポーツなど他分野との連携も視野に入れた取り組みを推進し、共創の精神により「須坂文化の振興」そして「須坂の人づくり」といった生涯学習の推進施策を進めていきますので、さらなる御協力をお願い申し上げます。

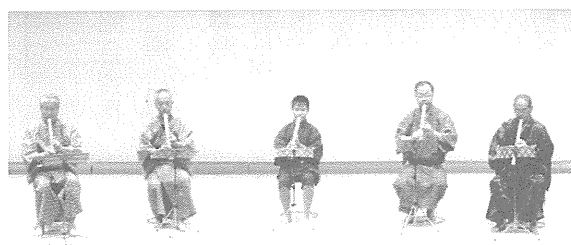


表千家



藤勢津会 「京の四季」

平成26年度 第52回 市民文化祭 から



尺八汎山会



白鳥バレエ学園 須坂教室



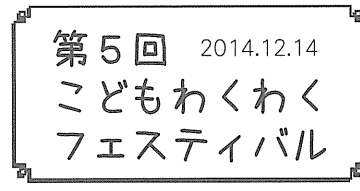
展示風景



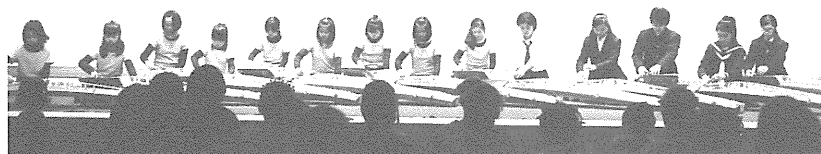
花柳葉緑社中



体育協会



第5回 2014.12.14
こどもわくわく
フェスティバル



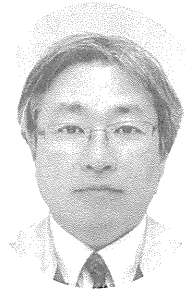
正派雅尚会



白鳥バレエ学園 須坂教室

文化芸術の振興をするために

須坂市中央公民館長 田中賢一



須坂市文化芸術協会会員の皆様におかれましては、日頃から公民館活動に御理解御協力を賜り厚くお礼申し上げます。

文化芸術は、私たちが充実した人生を送るために必要なものであり、大変身近なものでもあります。「いつでも」、「どこでも」、「だれでも」が文化芸術活動に参加できる機会提供の場として、須坂市文化芸術協会と公民館が連携して開催する文化芸術講座も、はや7年目を迎えました。文化芸術協会所属の方を講師にお願いし、講師の皆様のご親身で熱心なご指導により、公民館で学習を継続されているグループがあります。ことに、衷心から感謝申し上げます。

市民の多くの方が、素晴らしい伝統文化や芸術に触れ、学び、親しむことで、文化芸術に対する意識が高まり、そ

の地域の力が蓄えられ、地域が活性化いたします。

また、引き続き、文化芸術分野にとどまらず、他分野などの団体とも交流、連携などを通して、活動や運営方法の良い点を参考にされながら、今後の活動や運営に反映いただければと思います。そして、その交流や連携が県内外に広がればと願っております。

結びに、南澤汎山会長様をはじめ、須坂市文化芸術協会会員の皆様方の今後益々のご発展とご健勝をご祈念申し上げます。

文化芸術講座のご紹介

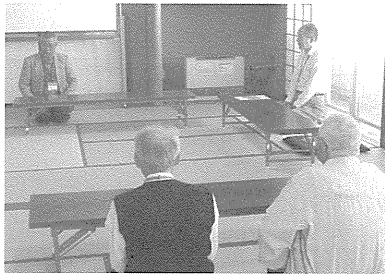
フラダンス



ハーモニカ



さわやか謡曲教室(観世流)



箏



いけばな教室(小原流)



消防木遣



●●● 新役員紹介 ●●●

役職名	氏名	所属団体名
会長	南澤 汎山	尺八 汎山会
副会長 兼 芸能部長	花房 多都蔵	花房 多都蔵社中
副会長 兼 謡曲部長	茂野 一雄	須坂宝生会
副会長 兼 音楽部長	市川 捷雄	ハーモニコーコスモス
副会長 兼 展示部長	小林 孝子	草月流
副会長 兼 茶席部長	北原 勲	石州流
会計	小泉 映美子	江戸千家
事務局	村石 武志	柏 謳会
幹事	跡部 汎鳳	尺八 汎山会
幹事	市村 文男	無想伝心碧洲流
監査員	神林 寿一	柏 謳会
監査員	金箱 きよ子	宏道流(渡辺)

新加入団体

芸能

太極扇舞会

代表 山崎 優子

音楽

ひまわり

代表 勝山 延洋

よろしくお願い致します

第53回 須坂市民文化祭

謡曲会・音楽祭

10月12日(祭・日)

メセナ大ホール

芸能祭

10月25日(日)

メセナ大ホール

展示会

10月24日(土)

25日(日)

メセナ小ホール

茶席

10月24日(土)

しらふじ

中央公民館

文芸協と私
①

謡曲を習い歴史を知る

柏謡会 村石 武志

謡の稽古をしていると『こんなに良いことがあるよ』というのに、『謡十徳』（うたいじつとく）なるものがあります。その中に私が好きな言葉で『老いずして故事を知る』というものがあります。意味は、古老でなくともいにしえの出来事（歴史）を知ることが出来る、という事でしょうか。

謡曲の題材には歴史上の物語が多数取り上げられており、特に習わなくても歴史を知ることが出来るというものです。学校でそれなりに歴史の授業を受けましたが、受験準備のための授業と思っていましたから、興味など全くありませんでした。実際に謡を稽古していると不思議に興味が出てきます。そして



もっと知りたくなり、謡本の隅々まで読みあさる様になりました。

もとより、謡の稽古を始めた動機は不純で、酒宴の『お肴』を習いたくて始めたものでした。人様に自信を持つて聞いて頂けるものではありませんが、一応謡える程度にはなりました。

この様に謡を通して、お肴を習得し、歴史にも多少触れる事が出来たことを嬉しく思う今日この頃です。

文芸協と私
②

邦楽の継承に参加して

尺八汎山会 北島 汎詠

尺八汎山会は、南澤汎山先生の下で、週一回稽古をしています。毎週稽古してもつくづく感じるのは、なかなか上達しないということです。その点を見越してか、我が汎山先生には本番の舞台を多く

作っていただいております。私が思うに、どんな規模の舞台であっても、本番の舞台に立つ前には、誰でも普段の稽古に加え、自分なりに何らかの準備をするものではないでしょうか。

春には、須坂市博物館が主催して満開の桜の下で開催される「邦楽コンサート」に出演。夏には、メセナホールで開催される「納涼邦楽コンサート」に出演。また、日頃の研鑽の成果を発表すべく、市民文化祭にも毎年参加させていただいております。他にも、様々な機会を作っていたいただいております。

これらを生かし、これからも、文化芸術協会の一会員として、伝統文化である邦楽の継承に努めて行きたいと思っております。

文芸協と私
③

雅叙園の花会を終えて

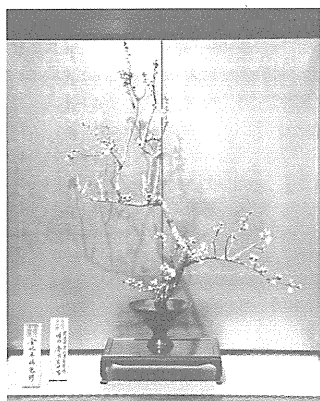
宏道流（望月） 黒岩 澄子

春にはまだ早い三月、目黒雅叙園での花会が百段階段において開催されました。

主催は公益財団法人日本いけばな芸術協会の特別企画に依るものです。

期間は三月十七日を第一期とし、第九期五月十七日迄総勢五十四流派が七つの部屋に、

下から十畝の間、漁樵の間、草丘の間、静水の間、星光の間、清方の間、頂上の間を、ケヤキの階段廊下が繋いでいます。その一室毎に各流派が週替わりで作品を披露するいけばな祭典で、絢爛豪華な文化財空間との美の共演に、私は第一期三月十七日、三月二十二日の一週間の担当で出瓶いたしました。



会場は江戸時代の細川家の屋敷跡で、お家流としての宏道流にとりまして、一入の感がございました。会場が有形文化財の程に凡ての点に気を使って挿上げた作品には、長い人生花にかけて来た喜びを実感いたしました。また挿込みの最中では、世界的に有名なアメリカのAP通信社の取材があり、汎山の国の方々が宏道流の花を“ビューティフル”と言っていているかと思うと、胸が熱くなる思いの花会でした。



「炭を継ぎ紅き焔を
もてなしぬ」
江戸千家流の茶道に親
しんで四十余年、此頃
少し理解できたことに
お茶は科学だ?という
こと。おもてなしの心
を持ちつつも、調度
いい塩梅に湯を沸か
し、コミュニケーション

ンを円く醸しながら絶
妙な味の旬な食料と一
献、続いてお菓子と抹
茶(濃・薄)これぞ日
本文化というところで
す。辛苦も糧に続けて
こられたことに深く感
謝し幸せな気持ちで年を
重ねています。

文芸協での秋の文化
祭で皆様と相見
え、支えやご協
力の元、少して
も会の発展に繋
がる様になりたいと
思っております。
どこのお茶会
も美味な抹茶を
点てていますの
で、皆様憶する
事なくご参加下
さい。
「春惜む作法要
らずの茶に侍
り」と著名な俳句有
ります。

文芸協と私
④

お茶事のあり方

江戸千家 小泉映美子

文芸協と私
⑤

舞台は学びの場

照岳流吟剣詩舞道会 菅沼広之

まず初めに、吟剣詩舞
道について少し紐解くこ
とから始めます。
始まりは、明治時代初期
一部の私塾や藩校におい
て漢詩を素読する際に独
特の節を付すことが行わ
れたのが、今の詩吟の直
接のルーツと言われてい
ます。
特に、日田の成宜園や
江戸の昌平坂学問所にお
いて行われていた節調が
多数の門人によって日本
全国に広められ、幕末の
志士も、その悲憤慷慨を
表現するために好んで詩
を吟じたと言います。
剣詩舞(けんしぶ)は、
その詩吟に、刀剣や扇を
持ち舞い詩の情緒を表現
する物です。この歴史あ
る剣詩舞道に出会ったの
が、四十五年ほど前、私
が物心付くころには剣を
持ち舞台上に立つて居ま
した。これも父、初代宗家
照岳と、母、玉心の影響
でしょう、そして今まで
に、多くの舞台上に立た
せて頂き、多くの人の剣詩
舞舞を見させて頂きまし
た。その経験から多くを

学び、今の芸風を身に着
ける事が出来たと思いま
す。
文芸協もその一つ、詩
の情緒を表現することは
非常に難しいことですが
より多く舞台上に立ち、自
分達の技を見て頂く、又
多くの皆さんの技を見せ
て頂くことで、新たな発
見があり、自分の技を磨
くことに繋がるのです。
昨今、多くの会が高齢
化、会員の減少など問題
を抱えているのが現状で
すが、少しでも日本の文
化に興味を持って頂き、
文芸協の盛り上げに協力
して行ければ幸いです。
今後とも、よろしくお
願い致します。



文芸協と私
⑥

花房流宗家追善公演

花房多都蔵社中 花房多都蔵



花房流宗家
花房 扇寿

一昨年の九月十三日、
花房流宗家 花房扇寿
が他界し、花房流にと
りまして大変な存在を
失ってしまい、誠に残
念・無念極まりない思
いでいっぱいでござい
ました。
須坂市文化
祭におきまして
は、第一回より
携わり、以後、
半世紀にわたり
市民文化祭とし
て当文芸協会の
歴史と発展に一
翼を担うことが
出来て、花房流
としても誇りで
あります。
そんな中、門



「大忠臣蔵」の一場面

平成26年度須坂市文化芸術協会決算書

平成27年度須坂市文化芸術協会予算書

収入金額	950,010円	収入金額	944,550円
支出金額	927,989円	支出金額	944,550円
差引残高	22,021円 (次年度繰越金)	差引残高	0円

収入の部					収入の部				
単位・円					単位・円				
科 目	決算額	予算額	増 減	摘 要	科 目	予算額	前年度予算額	増 減	摘 要
前年度繰越金	20,170	20,170	0	前年度から	繰 越 金	22,021	20,170	1,851	
会 費	479,800	470,000	9,800	45団体×3,000 676人×500 子どもフェスティバル会費 34人×200	会 費	472,500	470,000	2,500	45団体×3,000 675人×500
補 助 金	450,000	450,000	0	須坂市から	補 助 金	450,000	450,000	0	須坂市より
雑 収 入	40	50	△10	利息	雑 収 入	29	50	△21	利息ほか
合 計	950,010	940,220	9,790		合 計	944,550	940,220	4,330	

支出の部					支出の部				
単位・円					単位・円				
科 目	決算額	予算額	増 減	摘 要	科 目	予算額	前年度予算額	増 減	摘 要
会議費	4,480	25,000	△20,520	監査、三役会	会議費	25,000	25,000	0	監査、役員会
渉外費	14,000	15,000	△1,000		渉外費	15,000	15,000	0	
普及活動費	32,701	35,000	△2,299	子どもわくわくフェスティバル 諸経費、連携講座講師謝金	普及活動費	35,000	35,000	0	子どもわくわくフェスティ バル、連携講座、諸経費
通信・事務費	22,052	30,000	△7,948	コピー用紙、コピー代、はがき等	負担金	55,000	55,000	0	須高文化交流会等
負担金	89,500	55,000	34,500	須高文化交流	通信・事務費	30,000	30,000	0	用紙、コピー、はがき等
事業費	765,256	775,000	△9,744		事業費	780,000	775,000	5,000	
名簿・会報	73,980	73,000	980		名簿・会報	74,000	73,000	1,000	
広 告	90,400	100,000	△9,600		広告	100,000	100,000	0	
プログラム・ポスター	178,876	180,000	△1,124		プログラム・ポスター	180,000	180,000	0	
謡曲部	26,000	26,000	0		謡曲部	34,000	26,000	8,000	
音楽部	60,000	60,000	0		音楽部	67,000	60,000	7,000	
芸能部	250,000	250,000	0		芸能部	233,000	250,000	△17,000	
展示部	60,000	60,000	0	個人会員含む	展示部	66,000	60,000	6,000	個人会費含む
茶席部	26,000	26,000	0		茶席部	26,000	26,000	0	
予備費	0	5,220	△5,220		予備費	4,550	5,220	△670	
合 計	927,989	940,220	△12,231		合 計	944,550	940,220	4,330	

基金（別途積立金） 20,000円

基金（別途積立金） 20,000円

平成27年度須坂市文化芸術協会事業計画

期 日	事 業	内 容	場 所
4月7日(火)	定期理事会	決算報告・事業計画など	中央公民館
4月21日(火)	第1回会報委員会	文芸協だより発行について	中央公民館
5月12日(火)	第2回会報委員会	文芸協だより発行について	中央公民館
5月26日(火)	第3回会報委員会	文芸協だより発行について	中央公民館
6月3日(水)	連携講座の開始	7 講座	中央公民館
6月16日(火)	第1回常任理事会	理事会について	中央公民館
6月23日(火)	第1回理事会	会費納入・会報等の配布	中央公民館
7月11日(土)	議員懇談会		
9月	第2回常任理事会	理事会について	中央公民館
9月	第2回理事会	市民文化祭プログラム配布 等	中央公民館
10月12日(祭月)	第53回市民文化祭	謡曲会・音楽祭	メセナ
10月25日(日)		芸能祭	メセナ
10月24日(土) ～25日(日)		展示会	メセナ
10月24日(土)		茶席	中央公民館・しらふじ
12月19日(土)	第6回子どもわくわくフェスティバル		メセナ
平成28年			
1月	新年交流会		
2月	須高文化交流会	小布施・高山須坂文化交流会	小布施町
3月	会計監査	平成27年度収支決算	中央公民館

編集後記

仏様の祭り七年に一度の善光寺御開帳が終り、新緑の美しさと生命の力強さを感じる季節となりました。観光地箱根をはじめ日本各地で火山活動が活発に

なっているようで心配です。来年は神様の祭り七年に一度の御柱祭りが各地で始まります。

(茂野)

茂野 一雄・小林 孝子
宮崎さと子・北原 勲
村石 武志・市川 捷雄
北島 汎詠・永田 郁子
高坂恵美子